

平成21年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ キムラ タカシ
氏名 木村 隆

研究期間 平成21年度

研究課題名 言語アセスメントから見る日本と中国の国際観光
—観光地における言語サービスを比較する

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	木村 隆	文化情報学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

2007年に世界観光機関が発表した「国際観光客受入国ランキング」では、中国がアジアで最上位の4位、日本が31位となっている。同機関によると、中国は2020年までに世界トップの観光デスティネーションになると予測している。今後さらに競争力が低下していく可能性のあるわが国が国際観光客を増やしていくには、外国人向けの言語サービスを充実させていくことが不可欠であると考えられる。このような問題意識を踏まえ、本研究では日本と中国の主要観光地において言語サービスのアセスメントを行って比較分析し、特にわが国観光地における言語サービスに関して改善案を提示したい。

2. 研究方法等 (300字以内で記述)

文献やインターネットを使用して予備的な情報収集を行った後、現地に赴いて視察調査を実施した。中国での調査は、平成21年10月31日から11月5日にかけて北京および上海で実施した。調査対象としたのは、北京市では「天壇公園」・「故宮博物院」・「明陵」・「居庸関長城」でいずれも世界文化遺産に指定されている史跡である。上海においては、市内の「豫園」と近郊にある「周荘」を調査対象とした。また日本においては、世界遺産「古都京都の文化財」に含まれる清水寺・金閣寺を調査対象とした。いずれの観光地においてもパンフレット(含む入場券)、場内の掲示・標識(含む電光掲示)、音声ガイドについて記録した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

インターネットによる予備調査からは、「故宮博物院」と「明陵」が独自のウェブサイトを経営し、それぞれ外国語による詳細な情報提供（故宮博物院：日本語と英語、明陵：英語）を行っていることがわかった。「居庸関長城」は万里の長城全体に関する英語公式サイトに含まれている。また上海近郊の水郷古鎮である「周荘」については公式サイトが運営されているが、英文のページは現在作成中である。上海市内の「豫園」については独自のサイトを持たない一方、周囲の商業地区全体を含めた「豫園商城」としてのウェブサイトが運営されており、そこから英語で情報を入手することができる。清水寺・金閣寺については、ともに公式サイトを運営しているが英文のページはない。

今回実施した中国現地調査からは、北京で訪れた4つの史跡（故宮博物院・明陵・居庸関長城・天壇公園）、上海の2つの観光地（周荘・豫園）とも、場内のほぼすべての案内標識や解説パネルに同じ内容の英語が併記されていたことが確認できた。Backhaus (2007) は、標識に2つの言語が使われていた場合の両言語の関係を、①homophonic signs (各言語が完全な対訳) ②mixed signs (一方は他方の不完全な訳) ③polyphonic signs (互いの訳に関連性がない) ④monophonic signs (1言語だけで情報提供) の4つに分類しているが、これに従うと、今回の調査で訪れた中国観光地の大部分の標識や観光解説は①の homophonic signs と言ってよく、中国語を理解しない外国人にもほぼ完全な観光情報が与えられている点で外国人観光客の文化理解の促進に大いに貢献していると考えられる。一方わが国の観光地における標識や解説は中国のそれらと比べて不完全な場合が多く、①はほとんどない。また、文字の大きさや位置など、いわゆる視覚上の優先度においても、中国ではわが国とは異なって、中国語と英語が同等に扱われている場合が多い。音声ガイドについては、中国の「天壇公園」と「故宮博物院」で利用することが可能であったが、日本の清水寺・金閣寺ともに整備されていなかった。

JNTO の訪日外国人旅行者満足度調査 (2005) によると、文化と歴史に関する日本のイメージは、訪日後に低下している。これには観光地での言語サービスが不足していることも関連している可能性がある。外国人観光客が、より容易に、より正しく日本の文化や歴史を理解できるよう、言語サービスの整備充実が望まれる。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①言語アセスメント	②言語サービス	③国際観光	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

本研究については基礎的なデータを収集した段階なので、まだ研究成果を公開する段階には至っていない。今後は中国と日本の観光政策も考慮に入れた上でデータ分析と考察を行い、関連の学会での発表や論文誌での公開を目指していきたい。